

風水害対策

1 はじめに

2 ハザードマップ

3 災害の知識

4 情報の集めかた

5 避難について

6 災害への備え

■雨の強さと降りかた

大雨や洪水によって浸水した場所を移動すると、見えなくなっている用水路やふたが開いてしまったマンホールなどに気づくことができず非常に危険です。また、少しの深さと流れがあるだけで、歩いて移動することはできなくなるため、雨の強さと降りかたに関する情報の収集を心がけてください。

予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量	10～20mm未満 雨の音で話し声がよく聞き取れない。	20～30mm未満 ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	30～50mm未満 山崩れ、かけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	50～80mm未満 マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	80mm以上～ 雨による大規模な災害の発生するおそれがある。厳重な警戒が必要。
状況					

地下道（アンダーパス）に注意！

アンダーパスとは、道路や鉄道などの立体交差の下を通る地下道のことをいいます。大雨や洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしものときに備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行が困難になります。

■警報・注意報発表基準一覧表

警報や注意報は、雨量等がそれぞれの基準に達すると予想される区域に対して発表されます。雨の予報とあわせて、現在の雨の降りかたや、すでに降った雨の量に関する情報とともに、警報や注意報に関する情報の収集を心がけてください。

種類	発表の時期	発表の基準
注意報	大雨注意報	大雨による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表されます。対象となる災害として、浸水災害や土砂災害があげられます。 表面雨量指標基準：12 土壤雨量指標基準：73
	洪水注意報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したときに発表されます。 流域雨量指標基準：熊川流域=13.8、押川流域=5.1、松葉川流域=9.4、湯坂川流域=8.8、巻川流域=3.5、相の川流域=7.3 複合基準 ¹ ：那珂川流域=(10, 37)、簗川流域=(8, 35)、熊川流域=(8, 13.8)、押川流域=(10, 5.1)、松葉川流域=(9, 7.5)、湯坂川流域=(6, 8.8) 指定河川洪水予報による基準：那珂川[小口]、那珂川上流部[晩翠橋・黒羽]、簗川[佐久山]、蛇尾川[蛇尾橋]、余笠川[中余笠橋]
警報	大雨警報 ² （土砂災害）	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表されます。 表面雨量指標基準 17 (浸水害) 土壤雨量指標基準 121 (土砂災害)
	洪水警報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表されます。 流域雨量指標基準：熊川流域=17.3、押川流域=6.4、松葉川流域=11.8、湯坂川流域=14、巻川流域=4.4、相の川流域=9.2 複合基準 ¹ ：那珂川流域=(13, 45.9)、熊川流域=(13, 15.5)、松葉川流域=(9, 10.6)、湯坂川流域=(9, 12.6) 指定河川洪水予報による基準：那珂川[小口]、那珂川上流部[晩翠橋・黒羽]、簗川[佐久山]、蛇尾川[蛇尾橋]、余笠川[中余笠橋]
記録的短時間大雨情報	台風や前線などの活動で、局的に激しい雨を観測したときに、警戒を呼びかけるために発表されます。	1時間雨量 110mm

*1 (表面雨量指標、流域雨量指標) の組み合わせによる基準値を表しています。

*2 大雨警報（土砂災害）は、雨が止んでも重大な土砂災害等のおそれがある場合には発表が継続されます。雨が弱まってから土の中の水分が抜けるまでに時間がかかるため、警報の発表中は注意が必要です。

ダムの放流＆ため池ハザードマップについて

■ダムの放流による川の水位上昇に注意

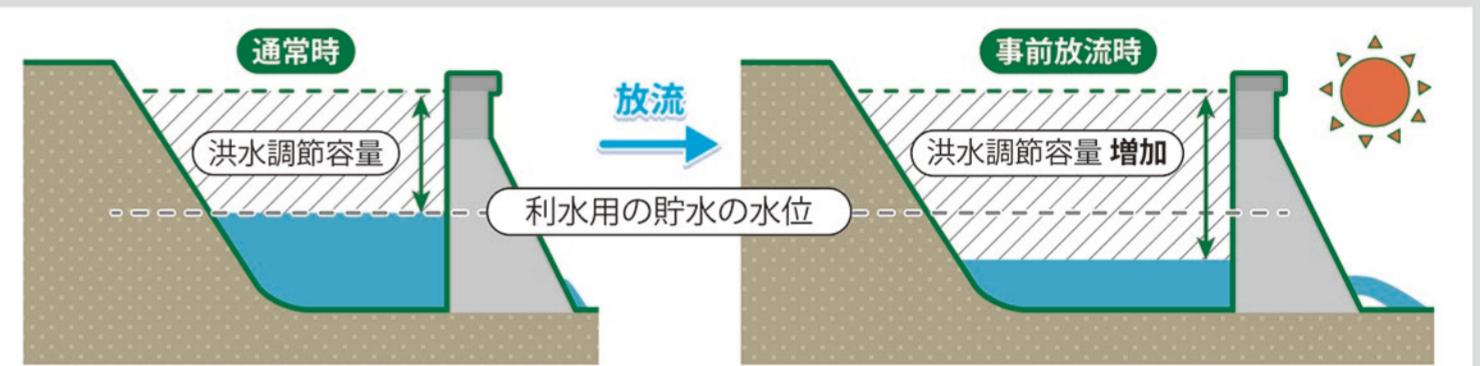
ダムは、雨水を貯めて洪水災害を防ぐために、主に「緊急放流」と「事前放流」によって容量の調整を行っています。ダムの放流時には下流の川が増水するため、ダムの放流情報を収集を心がけてください。

①緊急放流

想定を超える大雨の際に、ダムに流入する水の量が増加してダムが決壊するおそれがある場合、流入した量と同じ量の水を放流します。

②事前放流

台風などでダム容量を超える大雨が予想される場合、洪水被害の防止・軽減を目的に、晴れても事前にダムの水を放流します。



- 利水用の貯水を放流して、事前にダムの水位を下げ、通常時よりも洪水調節容量を増やすことで、より多くの水をためることができるようになります。ダム容量を超える大雨による洪水被害の防止・軽減を図ることができます。
- 事前放流が始まると、急な水位上昇の可能性があるため大変危険です。晴れっていても放流は行われますので、ダム内の水を放流する合図（サイレンなど）があった場合は、川に近づかないでください。

■大田原市に関するダムの放流時に吹鳴されるサイレン（またはサイレン疑似音）の方法

ダム放流に伴う各ダム管理者によるサイレン吹鳴からおよそ30分程度で川の増水が始まります。危険ですのでサイレンが吹鳴されたら川から岸に上がり、河原に近寄らないようにしてください。

【那珂川】 深山ダム及び板室ダム 警報車が地点ごとに停車し、60秒吹鳴と10秒休止を3回繰り返します

【蛇尾川】 蛇尾川ダム 固定局から50秒吹鳴と10秒休止を5回繰り返します

【簗川】 塩原ダム 固定局から50秒吹鳴と10秒休止を5回繰り返します



■ため池ハザードマップについて

大田原市では近隣に住宅や学校がある市内4箇所の農業用ため池について、想定外の大雨や地震などでため池が決壊した場合の被害を予測しハザードマップを作成しています。市民の皆さまが速やかに安全な場所に避難できることを目的として公表しています。

CHECK! ➡・ため池ハザードマップ
<https://www.city.ohtawara.tochigi.jp/docs/2021042000023/>

